

**甲南大学フロンティアサイエンス研究科の
収容定員変更にかかる学則の変更の趣旨等を記載した書類**

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

甲南大学フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻は、下表のとおり、令和4年度より博士後期課程入学定員1名を2名に変更する。したがって、この入学定員の変更により甲南大学大学院博士後期課程の収容定員は以下の通りとなる。

現 行 令和3年度（2021年度）学則			
研究科	専攻	博士後期課程	
		入学定員	収容定員
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	1	3
	計	1	3
計		1	3
大学院合計		22	66



変更案 令和4年度（2022年度）大学院学則			
研究科	専攻	博士後期課程	
		入学定員	収容定員
フロンティアサイエンス研究科	生命化学専攻	2	6
	計	2	6
計		2	6
大学院合計		23	69

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

甲南大学大学院フロンティアサイエンス研究科生命化学専攻（以下、FIRST 研究科）は平成21年4月に、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー及びそれらの融合領域であるナノバイオテクノロジーを主たる教育・研究の学問領域とする修士課程入学定員5名（収容定員10名）、博士後期課程入学定員1名（収容定員3名）の研究科として設立された。平成27年には、修士課程の入学定員を

10名（収容定員20名）に変更し、さらに、令和3年度からは15名（収容定員30名）に変更している。一方、博士後期課程の入学定員は研究科設立当時から1名である。

FIRST研究科が教育・研究の対象とする学問領域は、平成19年版科学技術白書において戦略的重点化の対象として挙げられた8つの分野を広くカバーする領域であり、同分野に習熟した人材の供給には、現在でも大変強い社会的要請がある。また、FIRST研究科は、専門分野の異なる複数の教員が一人の学生の指導にあたるポリバレント体制などの教育方法を特徴としている。この特徴から、FIRST研究科は、即戦力指向が強まっている社会情勢において、融合分野における知識を学び、実践的経験を積んだ人材を育成することができる、「融合領域研究の実践的遂行を通じて学ぶ研究科」であるといえる。

FIRST研究科は、設立以来、上記の教育理念に共感した多くの入学志願者を集め、融合領域における実践的研究を学んだ修了生を社会に送り出してきた。このような大学院教育を目の当たりにしているフロンティアサイエンス学部では、その大学院進学率が、平成25～令和3年度入試において40～60%で推移しており、この9年間の平均では48%（大学院進学者148名／卒業人数308名）となっている。このような進学率は全国的に見ても私立大学理系学部としては高い値である。その結果、過去6年間（2016-2021年度）の収容定員充足率は、修士課程では2019年度を除いて、博士後期課程ではすべての年度で100%以上を維持している。（学生確保の見通し 資料2を参照）

一方、FIRST研究科の教育内容・教育方法、ひいては人材供給に対する社会的要請は今後ますます高まることが想定される。すなわち、令和3年版科学技術白書が科学技術・イノベーション白書と名前を変えてイノベーション力をもつ人材の必要性をうたい、また、中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においては予測不可能な時代を生きる人材像という表現が用いられているように、普遍的な基礎知識を有しながらも、異分野のものを柔軟に融合させる資質をもつ人材が社会に求められている。

このような社会情勢のもと、FIRST研究科博士後期課程では、イノベーションの足枷となる分野間の垣根と、基礎研究から開発までのプロセスの垣根を越える力をもつ人材を育成すべく、（1）学内においては複数分野の教員による融合研究・学際研究の指導のさらなる充実化、（2）学外においては官学・産学連携インターンシップによるトランスレーショナル人材（分野間や研究・開発段階

の橋渡しができる人材)の養成を進めてきた。国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援も受け、今年度より上記視点を重視した人材育成を開始し、来年度より本格稼働する予定である。今回の学則変更は、このような博士後期課程の教育体制の充実を機に、令和4年度入試より FIRST 研究科博士後期課程の入学定員を現行の1名から2名に増員するものである。

なお、学生確保の見通しについては、今年7月に FIRST 研究科修士課程において実施した調査により、複数学生の博士後期課程進学希望を確認している。また、地域連携を通じた社会人入学に関する広報や、留学生の受け入れ体制の充実化にも努める予定である。

入学定員増に際しては、従来の少人数体制の特長を生かしつつ、さらに、博士後期課程在籍者が増えることを活用して学生間の切磋琢磨を促すなど、より一層の教育体制の充実を図り、社会のニーズに応える人物教育と専門教育を行っていく予定である。

ウ. 学則変更 (収容定員変更) に伴う教育課程等の変更内容

FIRST 研究科の教育課程、教育方法及び履修指導方法、教員組織についてはいずれも変更はない。また、FIRST 研究科は独立した科目体系をとっているため、収容定員増による他学部、他研究科への影響はない。

なお、FIRST 研究科博士後期課程の収容定員を6名に増員しても依然として圧倒的な少人数体制であり、従来より特徴とする、複数教員が協同的に指導にあたる「ポリバレント教育」の質を十分に担保できるものと考えている。

以上